

令和3年度学校評価

学校関係者評価

評価項目		R2	R3評価	学校関係者評価
Ⅰ 地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する				◎オンラインなどのツールをうまく活用しながら、前に進めることができたことで、今後も多様な授業形態を行える素地が整ったことがかえてよかったかもしれない。 ●縦割で行っている活動によって、前年度の踏襲となるため、まったく新しいことに取り組むということになりにくい面があり、マンネリ化を招くのではないかという危惧がある。 ◎高校の授業としては、かなりどの活動もコミュニケーション力が試されるものであり、他人との関わりながら授業を遂行するするということは、村岡高校の特色として今後も活かしてもらいたい。 ○人口減少、少子化の波は学校単独では解決しがたいものであり、地域の小学校・中学校・高校の協力体制がさらに必要と感じています。 ○情報発信において、以前の勤務校では、中学校に文化祭に地域の高校生がパネルを展示しプレゼンするような取組もありましたのでそのような機会が村岡区でもできれば活性化の一助になるかもしれません。 ●評価値はほぼどの項目でも3点以上あって概ね良好ということだと思います。2点台の項目については、その要因の分析だけでなく、目標そのものの妥当性の検討を行ってはどうかと思います。 ◎2年続けて地域へ出かけて学び、交流を深めさらに地域に貢献する活動が大きく制限された除雪隊の活動や特別編成授業などできることにしっかり取り組まれていると感心しています。 ◎地域学入門、地域探求、地域スポーツ、総合的な探究の時間の各班の取組など、発表会で生き生きと活動する姿を拝見し、生徒が育っているなと感じました。 ◎村岡高校で取り組む様々な活動は、他人とのコミュニケーションを前提としたものであるため、コロナ禍でそれがやりづらくなってしまう環境の中でも多くのことに取り組めたことは高く評価したい。 ◎リモートツールを高校生自身が活用すべき環境に置かれていることで、彼らが今後大人になっていった際に、仕事の進め方も含めて、こういう環境で経験できている環境で経験できていることは大きなアドバンテージになっていくように思う。 ○地域の少子化がますます進む中で、高校を存続させるためには、地域外の生徒を増やす以外の方法はないと考える。下宿を行うことが前提となる中で、学校側と下宿提供側と協力しながら進めていくことが必要になってくる。
①総務部	P T Aとの協力の中で、生徒の地域活動への参加の新たな形を考え実践する	3.1	2.7	
②教務部	地域の外部講師、機関との関わりを密にすることで、類型の授業をより深いものとする	3.4	3.5	
③生徒指導部	地域行事・地域協働活動に積極的に参加することを通じて社会人として実践力を養う	3.3	3.0	
④進路指導部	地域の中に題材を見つけることで、将来の学びに活かせるよう指導する	3.1	3.0	
⑤保健部	家庭、学年と連携を深め、心と体の健康を自ら作り出す力を育てる	3.4	3.3	
⑥1年	「地域協働活動」や「地域学入門」を通して、個々の役割を自覚し、責任を持ってやり遂げるよう指導する	3.5	3.6	
⑦2年	総合学習の時間や地域探求を通して地域を正しく理解し、地域への愛着を深め地域貢献できる生徒の育成を目指す	3.4	3.6	
⑧3年	総合的な学習の時間や類型の活動での学びを振り返りさせ、進路実現に活かせるよう指導する	3.2	3.6	
Ⅱ 自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成し、学力の向上を図る				●組織診断ポートフォリオについて ●学習活動の探究性に関わる部分で、3年生は2年次よりかなりポイントが上がっているが、2年生同様に2年次では一度ポイントが下がっている。 ●総合的な生徒の満足度が2年生は1年次との比較で下がっており、3年生も2年次に上がったものの、3年生で下がっている。 ◎全体としては他地域の比較や前回、前々回との比較を見ても良好な結果が出ている。 ○高校魅力化評価システムについては、どの程度の信頼性のある調査なのか、疑問もありますが、村高の取り組みや生徒の実態と関わらせて、この調査結果をどのように読んだかを知りたいと思います。 ・生徒・保護者アンケートについて ●自由記述に対する対応は丁寧にされていて良いと思いました。ただ、調査結果に対して学校としてのまとめコメント（結果をどう捉えて指導にどう生かしていくか）がないので、特徴的な結果の部分だけでもコメントがほしいと思います。
①総務部	地域活動から学んだことから新たな課題を提唱し、発展させられるような機会を持つ	3.0	2.9	
②教務部	I C Tの積極的な活用を進め、生徒の学習に対する興味・関心がより高まるよう、授業の工夫や改善を促す	3.0	3.1	
③生徒指導部	リーダー研修会やホームルール等でのグループワーク（討論）を通して、生徒の自主性、自発性、自律性を養う	3.3	3.3	
④進路指導部	探究活動などで獲得した知識や考えを言語化（志望理由書や小論文）することを通じて、進路実現に活かせるように指導する	3.1	3.2	
⑤保健部	疾病に関する正しい知識を得て実行できるよう、実習・講習会などの機会を持つ	3.3	3.3	
⑥1年	基礎学力の定着を図るとともに、自ら学び考える力を育てるため課題提出をし、自学自習の習慣を身に付けさせる。	3.2	3.3	
⑦2年	進路意識の向上と進路目標の明確化を目指して指導するとともに、進路実現に向けて学力の向上を目指す	3.3	3.3	
⑧3年	学校行事や授業等で得た知識をもとに、自己の考えを積極的に発表できるよう指導し、自己表現能力の育成に努める	3.3	3.3	
Ⅲ 協働的な学びの中で豊かな人間性を育てる				
①総務部	高校生の活動を広く地域に知っていただくための具体的な方法を考える	3.1	2.8	
②教務部	各教科でのアクティブ・ラーニングの実践を促す	3.0	2.6	
③生徒指導部	生徒が積極的に参加する行事（村高祭等）を効果的に実施し、成就感を体得するとともに協調性を養う	3.7	3.7	
④進路指導部	模擬面接・グループディスカッション・複数の教員との面談を通じて、多面的に物事を理解し協働する精神を養う	3.2	3.2	
⑤保健部	健全な学校生活を送るための環境づくりの重要性を自覚し、生徒・職員が協力して清掃美化活動を行う	3.3	3.4	
⑥1年	H R活動や学校行事などを通して、他人への思いやりを育て、互いを認め理解し助け合える人間関係を育てる	3.5	3.5	
⑦2年	中堅学年としての自覚を持ち、集団に寄与できる生徒の育成と、互いを認め高め合う人間関係の構築を図る	3.3	3.5	
⑧3年	最高学年としての自覚を持たせ、様々な活動においてリーダー役として行動できる集団の形成を目指す	3.5	3.5	
		3.3	3.3	